

ニ在リシヲ以テ労働者側ハ憤慨シ等々對策協議中ナ
リシガ休業期間満了スルモ就業セズ十一日劇東美術
及禪工組合本部員出ロ小一郎外三白ハ前工場主ニ對
シ別記(三)ノ如キ要求書ヲ提出セリ

六、経過

工場主側ニテハ茲要亦書ニ對シ全部拒絶シ殊際全員
解雇セントスル意圖ナリレガ斯クテハ社会問題トシ
テ相當紛議ヲ惹起スル虞レアリトシ解雇ヲ中止シ今
日直チニ労資会見論議ノ結果別記(四)ノ通り協定一先
ツ成立シタルガ爭議費用支給額ノ多寡ニ因リ尚紛議
ヲ生ズルノ虞レアルヲ以テ引續キ注意中

右及申(通)限也

別記(一)

協約書(二部写)改訂セルモノ。

一、昭和四年一月以降工場ノ都合ニ依リ休業ヲナス時ハ即日ヨリ元ノ年當り支
給ス

一、職工 一名ニ付キ 一月五十銭

二、徒弟 一名ニ付キ 七十五銭

但シ職工一名ニ付キ其ノ月六ノ日 徒弟一名其ノ月三十日以上ノ稼高ヲ
リシハ時ハ休業年當り支給セズ

二、事業ノ不振其他天災等ノ事由ニ依リ一般多數職工ヲ解雇スル時ハ双方協議
ノ上出資得限ノ方法ヲ講シ解決セシムルニト

三、工場ノ都合ニ依リ個人ヲ解雇スル時ハ年當トシテ金五千兩ヲ給シ一年以上
ノモノニ對シテハ一年加算金五圓ノ計算支給スルニト

(勤務年數ノ計算ハ昭和四年一月ヨリ文ヲ計算スルニト)
但シ職工ノ重大ナル過失又ハ賭博ノ為メ検挙セラレシモノニ對シテハ
年當り支給セズコトヲ解雇スルコトヲ得 以下者自志

別記(二)

工賃ニ對スル改訂協約(寫)